

栃木市にある貴重なたからもの

栃木市にも、長い歴史の中で生まれ、わたしたちの先祖によって今日まで守り伝えられてきた、古いたからもの（文化財）があります。ここではどんなものがあるのか、少しだけみていきましょう。

❖ 村檜神社本殿（建造物）

本殿は1533年に建てられたもので、室町時代後期のけっ作です。本殿左方の柱には、飛騨の工匠、左甚五郎の作と伝えられる彫刻があります。境内にはスギの大木や植物が自生して希少生物も生息する林で、村檜神社社叢とよばれ大切に伝えられています。



❖ 鉄造薬師如来坐像（彫刻）

鎌倉時代につくられた鉄製の仏像の代表作です。1277年につくられたものですが、作者はわかっていません。像の高さは90.0cmあり、ごく一部にうろしが残り、さらにその上に金ぱくを重ねています。



下野七廻り鏡塚古墳
出土品（考古資料）
…9ページ

吾妻古墳（遺跡）
…9ページ

下野国庁跡（遺跡）
…10、11ページ



❖ 藤岡神社遺跡出土品（考古資料）

数多くの出土品のなかでも、縄文時代後期から晩期（約4000年から2600年前）にかけての土器・土製品、石器・石製品など1,244点は、縄文時代の精神文化や生活を示す貴重な資料です。なかでも土製品のうち犬形土製品は、まるでほえかかるようにつくりで、日本の犬の系統と人との関係がわかる資料として注目されています。



❖ 栃木市嘉右衛門町 伝統的建造物群保存地区（伝統的建造物群）

日光東照宮へ向かう天皇の使者が通ったという日光例幣使道沿いに発展した嘉右衛門町地区には、見世蔵をはじめとする江戸末期から昭和前期ごろの建物が数多く残り、2012年に栃木県初の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

